　三門革新懇第14回総会議案

1、情勢の特徴

2012年12月に発足した安倍内閣のもとで国民の暮らしはさらに苦しくなり、「全世代社会保障」を看板にして世代間の分断も狙われています。

2020年、安倍晋三首相が年頭から改憲発言を繰り返しています。年頭所感では「未来をしっかりと見据えながら、この国のかたちに関わる大きな改革を進めていく。その先にあるのが憲法改正」と表明し、６日の年頭にあたっての記者会見でも、通常国会で活発に議論し「憲法改正原案の策定を加速させたい」と強調しました。７日の自民党の仕事始めでも、改憲は「自民党の歴史的使命」と檄（げき）を飛ばしました。憲法９条に自衛隊を書き込む改憲に向けた首相の執念は全く異常です。安倍改憲を許さず、憲法を守り生かす市民と野党の共同を強めることが必要です。

　アベ政治の暴走は、憲法をじゅうりんし、日本の平和と民主主義、国民のくらしを根底から脅かし、憲法９条改憲を日程にのせるなど、かつてない深刻かつ危険な事態をもたらしています。しかし同時に「市民と野党の共闘」の発展にみられるように、アベ暴走をストップし、さらに戦争法廃止、立憲主義の回復、個人の尊厳、安倍９条改憲反対、などの国民的なとりくみの展開もかつてない広がりとなっています。

首相が狙う自衛隊を９条に明記する改憲には、昨年末のマスメディアの世論調査でも過半数の国民が「反対」しています。自民党の幹事長などを務めた古賀誠氏は著書『憲法九条は世界遺産』の中で、９条について「これはどんなことがあっても次の世代につないでいかねばならない」と力説しています。２歳の時に父親が戦死し、「戦争遺族」として苦労を重ねた古賀氏の言葉には、重いものがあります。古賀氏の思いは多くの国民にとっても共通のものです。歴史逆行の安倍改憲を阻止することが重要です。

桜を見る会の疑惑、カジノ汚職問題などで安倍首相は追い詰められています。野党が力をあわせて追及をやるというのは、この日本の政治に民主主義を取り戻すということにつながっています。

今年１月３日、トランプ大統領の指示により米軍がイラクのバグダッド空港で、イラン革命防衛隊・ソレイマニ司令官を空爆によって殺害しました。この行為は無法であり、国連憲章に違反した無法な先制攻撃そのものです。日本政府は、その行為を批判せず、なお自衛隊を中東に派遣するとしています。対米従属ここに極めり、と国民的批判がひろがっています。

三門革新懇も、地域住民の多くの方々と力を合わせ、大きな役割を果たしています。安倍９条改憲ストップのために引き続きの奮闘が求められています。今年、安倍政治を終わらせるためにも、「市民と野党の共闘を」の大きなうねりを、地域からつくりだしていきましょう。

2、三門革新懇が2019年にとりくんできたこと

2007年1月12日に、三門地域の住民運動の歴史　と財産を今日的により発展させるために、「平和・　民主・革新の日本をめざす三門の会」(三門革新懇)　の組織に発展させました。三門革新懇結成から13年が経過し、今日を迎えています。

昨年、2019年1月12日に三門革新懇第13回総会を開催しました。幹事会を開催する中で、人権連、生活と健康を守る会、新婦人、共産党、そしてみんなの会館運営委員会などの取り組み状況を出し合い、連携して住民の生活と福祉を守るための地域づくりに積極的な提起をしてきました。

　「戦争法」が2015年9月19日に強行採決されたことを忘れず、国民の平和を願う力の結集で必ず廃止させていくことを願って、毎月19日に宣伝行動を展開、昨年12月で連続50回になりました。

マイクを通じての宣伝では、安倍政治を終わらせ憲法を守ろう、住んで良かったいえる地域を互いの力でつくりあげていきましょう、などと訴えています。

国道180号線にかかわる都市計画道路事業化などについて、街づくりの観点から問題提起をしています。

福祉交流プラザ三友にエレベータを設置してほしいという住民の要求実現に向けて、厚生労働省や岡山市へ働きかけ、運営協議会が取り組んだ岡山市議会への署名活動も積極的に展開しました。

　地域人権運動みかどの会は、2019年11月17日に「住民運動60周年のつどい」を開催。地域から人権を確立をめざす運動を振り返り、新たな決意を固め会いました。

例年行われているみんなの会館での年末餅つきなどNPO法人地域人権みんなの会が運営する小規模多機能型居宅介護事業所「みんなの家ななくさ」「みんなの家だんだん」の運営にたいしても積極的な支援など、取り組まれました。

代表委員のお一人、花田健吾さんが5月20日に亡くなりました。数年の闘病生活中でも、地域住民の生活、真の革新勢力の伸長にむけて力の限りを尽くしてくれました。改めて逝去を悼み、その遺志をつないでいきたいと思います。

3、三門革新懇の2020年の活動方針

（1）安倍政治を終わらせ、民主連合政権をめざして

①全国での取り組みがすすんでいる「野党と市民の共闘」を三門地域のとりくみでも追求します。

②三門学区９条の会と連携し、憲法改悪をさせない新たな全国署名運動を成功させるため、地域で

のとりくみを強化します。

③戦争法廃止の毎月１９日宣伝を、朝７時30分から西崎本町、午後0時30分から喫茶ひまわり前

で行います。(ときに時間帯を変えて行うこともあります。また、情勢の変化に伴い臨時的な宣伝

にとりくむなど、政局に応じ臨機応変に展開します)

④庶民の暮らしと零細業者の経営を直撃している消費税を、まずは5％にもどすとりくみを展開しま

す。

⑤「部落差別固定化法」のもつ問題点などを学習し、法の実効をさせない状況をつくり、そして廃止

に向けた取り組みを強めていきます。

⑥これら運動を軸に、人権が確立された平和、民主主義の地域をめざして以下の活動も大いに展開

します。

（2）都市計画道路整備事業を新たな街づくりとしてとりくみます。

私たちは多様な要求をとりあげ、いつまでも住み続けられ、平和で人間らしい暮らしができる、つぎのような地域社会をめざします。

1、自分の意思により自由に考え発信し、行動できる地域社会。

2、貧困や格差による困難を解消し、幸福に暮らせる地域社会。

3、参加・協同による住民自治が確立された地域社会。

　　行政が提起してきている道路計画に対して、住民、住んでいる者、住み続ける者の立場から街づくりの観点で提起していくことが大切です。

　①岡山市の都市整備局から、2017年3月31日、国道180号線拡幅工事計画案（関西高校前～国道53号線北バイパス入口間：全長1,150メートル、幅27メートル）を関係町内会長に提示。その後、2018年にかけて各町内会や地域人権みかどの会へ説明会が開催されました。行政によるそれぞれ２回の説明会、そして現地のウォッチィング説明会なども開催しました。また、地権者への説明会も進められています。

　2019年末の岡山市から、予定より２年半ほど着工が遅れる見通し、という説明が各町内会や地域人権みかどの会に届いています。

　また、岩井保育園関係者に対する説明会もあり、保育園の園庭に新たな道路がかかることを明らかにしています。そのことと、公立保育園の存続と「認定こども園」への移行との関連する課題も惹起する可能性もあり、住民と保護者・園との共同した取り組みがより重要となっています。

②JR吉備線のLRT化をすすめる構想が岡山市が主導する形で進められています。三門駅前の国道180号線の真ん中を電車が走る設計が提案されています。

昨年、2019年2月15日に岡西公民館で、岡山市の吉備線のLRT化への三門学区を対象にした住民説明が100名近い参加でかいさいされました。参加者から、「LRT」は何の略称なのか、この説明会は岡山市としては何を求めてた説明会なのか、三門駅周辺は道路と併用の路面電車とするというがどこからどこの区間を考えているのか、せっかく新築したのにどのような補償になるのか、関西高校前踏切の渋滞は別のやり方で解決できるのではないか、などと意見が次々と。街づくりの観点での基本計画の策定と住民への説明、高齢化に伴う医療・介護施設を大切にする姿勢を堅持したうえでの計画の策定、などを提起しました。

しかし、12月の岡山市議会では、当局から、学区の説明会では了解してもらった、という答弁になっているようです。私たち住民から、もっと説明会を開くようにもとめていくこと、そして何らかの形で住民の意思を示すことが求められています。

③道路整備事業と街づくりの観点

勾配ある地形の特徴を考慮した地域づくり／歩くことが交通手段の生活圏の地域づくり

余裕ある歩道幅と余裕ある信号機の時間などを取り入れた地域づくり

憩える場所、居場所がある地域づくり／使いやすく安全な住居が確保できる地域

食料品がきちんと手に入る地域

お医者さんにすぐかかれる地域／安心して受けられる介護施設がある地域

公共の情報がすぐ届く地域／公共の住民サービスが行き届いた地域

家族が近くにいてくれる地域／子どもたちの声もきこえてくる地域

働き盛り世代が頑張っている地域／自然が豊かで静かな地域

文化的な行事、スポーツに参加しやすい地域

（3）住民の生活擁護のためのとりくみ

①生活相談活動を重視します。「みんなの会館」に気軽に相談に来られるよう、宣伝を強めます。

②福祉、医療、教育にかかわる課題で学習を展開します。

③消費税をまずは5％にもどし、公共料金など住民負担の軽減をもとめる諸活動を展開します。

④「みんなの家ななくさ」「みんなの家だんだん」との共同を強め、高齢者を守ります。

⑤「みんなの会館」が行う朝市のとりくみなどと共同します。

⑥岡山市の医療・福祉・介護の充実を求めてとりくみます。国民健康保険料の値上げをさせず払

える金額にさせていくとりくみを強めます。

⑦東日本大震災や西日本豪雨被災者への継続した支援活動、原発ゼロの社会に向けたとりくみを強め

ます。

（4）地域の安全・安心を確立させるために

　　　2018年7月の西日本豪雨は私たちの地域にも山崩れなどがおこり、大きな不安を招きました。

①危険箇所などを安全なものに変えていく提起と要求運動を展開します

②学校や町内会保育園、児童センターなどと協力し、子どもにとって安全な地域の確立をめざします

③高齢者や障害者にとって住みよい地域環境をめざします。みんなの家ななくさ・だんだんの祭りや集いなどの取り組みに積極的にかかわっていきます。

④公営住宅団地のコミュニティづくりや住みよい地域づくりのために、三門革新懇が広く三門地域に呼びかけて有志メンバーで、住宅や近隣に住む人々の安心・安全・交流が促されるような政策をまとめていきます。そして積極的な対応を行政に求めるとともに、受け入れる体制も検討していきます。

⑤福祉交流プラザ三友の施設整備や運営に、積極的に参加し、館の機能の充実を図ります。

（5）その他

①2020年11月6．7日に岡山市民文化ホールで開催する第１６回地域人権問題全国研究集会の成功

めざして地域から取り組みます。

②県知事選挙が10月に行われます。民主県政をつくるみんなの会に結集して、県政を県民のものにさせていきます。

③今日の情勢を切り拓いてきた「オール沖縄」のとりくみに学びながら、沖縄県民にいっそうの基地負担を押し付ける新基地建設を絶対に阻止するため連帯と支援を強めます。

④定期的な会議の開催とニュースとビラの発行、宣伝活動を強化します。

⑤現在の人権連みかどの会の前身の組織は、1959年12月に12世帯で結成されました。昨年、

2019年に60周年のつどいを開催しました。歴史を切り拓いてきた運動を今日的に活かし、

広く住民と共同して地域と住民を守り発展させるために、三門革新懇に大勢の人たちが結集

できる組織と体制づくりにとり掛かります。